

道

2017年9月

▼四月に小学校の、八月には高校のクラス同窓会があった。ぼくはそのどちらにも呼びかけ人の一人として開催に関わった。会はそれぞれほんとに楽しく豊かなものだったが、そのなかで、いろいろ考えさせられた。ちょっと重い話になるけど少し付き合ってほしい。▼ぼくらは卒業から既に半世紀経っている。その間一割前後の仲間が故人となった。今回参加した人、しなかった人の何人かは癌や重い病気を経験し、うち幾人かは今も病気を抱え、また、病气再発の不安のなかで生活している。他人事ではない。▼ぼくは、この夏、京都の大学で二日間にわたって開催された講座に、同窓会での思いも持って参加した（臨床倫理学入門コース）。そこでこんなことを考えた。▼人は誰も死を免れない。肝心なこととはどう死ぬかではなく、死を意識して死ぬまでをどう生きるかにある。その「生」を決めるのは自分であって、他人ではない。そして、そこでは自分と一緒に考えてくれる人が要る。人は一人で生きていない。さらに、自分をよく知ることでも大事。一方、認知症などで人は決める力を奪われる。「事前指示」や「意思決定支援」などが問われる。そうした生や死を考える際の軸になるものがほしい。いわば「哲学」か。学び思案し語り合う場が大切になる。▼二回の癌手術を受け、今は、スリムな体で（僕のように腹が出ていない）ピザ窯を作り、そこに人を招いてピザをふるまっている同窓生がいる。今度、そこで食事会をすることになっている。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

090-5366-1497

michi-care@outlook.jp

<https://michi-care.jimdo.com/>

林道也

